

2025年度 九州体育・保健体育ネットワーク研究会 ファイナル in 福岡 体育・保健体育の価値について考える

1 目的

九州各県の体育科・保健体育科教育に関する小中高の学校関係者、教育委員会関係者、大学関係者によって構成される有志が、新学習指導要領への理解、体育学習や保健学習に関する授業力の向上、教育課程編成等体育科教育の充実に向けて、語り合う機会とし、九州から全国へ実践ベースの情報を発信する。また、全国体育・保健体育ネットワーク研究会の交流を促進する。

2 ファイナル・ラウンド テーマ

OECD 学びの羅針盤で示される資質・能力の育成が目指される現在の改革の方向性の中で、体育科・保健体育科はどのような貢献ができるのか。全ての教科の中で最も「楽しい」と回答されるが、「役に立つ」での回答は低い。改めて体育科・保健体育科が有する価値に着目し、保健と体育を学ぶ意義について共有する機会としたい。

3 主催／共催／後援

[主催]九州体育・保健体育ネットワーク研究会、北海道・東北ネットワーク研究会、北信越ネットワーク研究会、

中国・四国ネットワーク研究会、関東・東海・関西ネットワーク研究会

[共催]福岡県体育研究所・福岡県教育委員会、鹿屋体育大学、熊本大学、福岡教育大学（予定）

[後援]佐賀大学、宮崎大学、大分県教育委員会、沖縄県教育委員会、鹿児島県教育委員会、熊本県教育委員会、長崎県教育委員会

宮崎県教育委員会、佐賀県教育委員会（予定）

[協力]台湾師範大学、韓国中央大学

4 期日

令和8年3月7日(土) 10:00~17:00(受付:9:30~) ※令和8年3月6日(金) 17:00~19:00 学生交流会

5 場所

福岡県立スポーツ科学情報センター(アクション福岡)

住所 〒812-0852 福岡市博多区東平尾公園2-1-4 TEL 092-611-1717

6 方式

対面及び Web ハイブリッド(一部配信)

7 内容

9:00 受付

9:30-11:00 ポスターセッション(研究成果、教材等の展示、発表)

12:00 開会式 挨拶)福岡県教育委員会、台湾チンウエイ先生

【第1部】

12:10-12:40 体育科・保健体育科の価値を共有する

参加者が考える体育・保健体育科の価値の共有(参加者回答を AI による分析)

12:40-14:00 参加者の意見を踏まえたコメントと意見交換 コーディネーター 佐藤 豊(桐蔭横浜大学)

小学校 体育学習の価値

塙見 英樹(国立教育政策研究所教育課程調査官 併 スポーツ庁教科調査官)

中学校、高等学校 体育学習の価値

綱島 賢(国立教育政策研究所教育課程調査官 併 スポーツ庁教科調査官)

保健学習の価値

岩田 悟(国立教育政策研究所教育課程調査官 併 スポーツ庁教科調査官)

【第2部】

14:15-15:30 分科会(会場内 3ヶ所同時進行で実施) 体育科・保健体育科の価値を高める各段階の重点と接続

第1分科会 小学校低・中学年(第1ステージ)の重点 コーディネーター 清田 美紀(環太平洋大学)

話題提供 日野 克博(愛媛大学)、石崎幸太郎(福岡県体育研究所)、玉城 健(沖縄県教育委員会)

第2分科会 小学校高学年・中学校1.2(第2ステージ)の重点 コーディネーター 石川 泰成(埼玉大学)

話題提供 岩佐 知美(高槻市立冠中学校校長)、小野寺理香(清里町立清里中学校教頭)

第3分科会 中3・高校(第3ステージ)の重点 コーディネーター 高橋 修一(日本女子体育大学)

話題提供 大谷 麻子(関西福祉大学)、兼武 巍(佐賀県教育委員会)

15:30-16:00 情報共有

16:00- 閉会式

18:00- 情報交換会

8 資料代(研究紀要)

2,500円 (学生は、1,500円)

※ Web 参加の方は、各自お振込みいただいた後、発送いたします。

※ 九州ネットワークの会費については、2025年度会費未納入者のみ徴収します。

9 参加申し込み

下記アドレスを直接アドレスバーに打ち込み、HPへアクセスし送信ください。

なお、2月27日(金)までにお申し込みください。(からのスマホアクセスも可)

ポスター申し込みもこちらからです。※ポスター締切は、2月21日(土)です！

<https://forms.gle/czgZcYogz77FFQe2A>

スマホからの参加

申し込み画面にジャンプします。

申込はこちらから

問い合わせは、事務局:桜(かこい) <chichicaco@nifs-k.ac.jp>
までお願いします。



10 その他

- ◆ 会終了後、18時より、博多駅近くの「もりもり」で情報交換会を実施します(学生以外)。
会費は5,000円程度を予定しております。ふるってご参加ください。
- ◆ 宿泊については、各自手配をお願いします。(非常に取りにくくなっています。お早目に！！)

11 問合せ／連絡先

事務局:鹿屋体育大学 スポーツ人文・応用社会科学系

担当:桜 ちか子 (0994-46-4971, chichicaco@nifs-k.ac.jp)

松永 武人 (0994-46-4966, matsunaga@nifs-k.ac.jp)

〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地 TEL/FAX 0994-46-4971

12 会場案内



バス

JR博多駅 バスターミナル14番乗り場から

37, 39, 39-Bのバス…約20分

(月限団地経由)(アクション福岡前下車)

福岡空港 地下鉄4番出口 福岡空港前バス停から37, 38, 39のバス…約7分

車

JR博多駅から………約20分

都市高速道路利用の場合

福岡方面から:月隈ランプ出口を降りて……約6分

太宰府方面から:金の隈ランプ出口を降りて…約9分

【ポスターセッション 申込み方法】

※ ポスター締切は、2月21日(土)です！

ポスター原稿を事務局:松永先生(matsunaga@nifs-k.ac.jp)までお送りください。

<ポスター作成イメージ>

全国の中学校ダンス授業の指導状況調査及びダンス授業教材の開発・普及
～令和2年度スポーツ庁武道等指導充実・質向上支援事業「ダンス指導成果の検証」調査より～

梅ちか子¹⁾、佐藤豊²⁾、高橋修一³⁾、石川泰成⁴⁾、金高宏文¹⁾、浜田幸史¹⁾、今吉貴子⁵⁾、山崎朱音¹⁾、小松恵理子⁶⁾、田巻以津香⁹⁾、萩原香織¹⁾、高岡綾子¹⁾、高岡瑞季¹⁾、岩佐知美¹⁾、高橋優¹⁾

1) 鹿児島女子短期大学 2) 桐蔭横濱大学 3) 日本女子体育大学 4) 埼玉大学 5) 新潟大学 6) 静岡大学
7) 長崎大学 8) 鹿児島女子短期大学 9) 東海大学 10) 高槻市教育委員会 11) 高槻市立川西中学校

<背景及び目的>
令和元年度のダンス授業の指導状況調査では、中学校の保健体育科教員の多くが、ダンス授業の指導内容や指導方針を実施し、ダンス授業に対する不安感などを抱いていた。そこで、基礎となる指導方法や教材について学ぶ環境や情報提供ツールの整備が必要であることを確認した。また、多角的な観点から指導の成果と課題を検証すると共に、「知識」と「技能」を関連付けた指導実践法を確立するため、新学習指導要領を踏まえた目指すべき授業の在り方を提案することを目的とした。

発表者の所属、氏名等

有効回答件数は、1484名であった。

ダンスを踊ることは得意か
ダンス授業の指導に対する不安
ダンス授業の指導に不安を感じる理由（複数回答）

中学校でダンス領域が完全必修となつて、約8年となるが、依然として、ダンスを踊ること自体に苦手意識を持っている教員が多く、ダンス授業に対する不安も8割を超える教員が「ある」と答えていた。その指導に不安を感じる理由も多岐に渡り、自由記述においても上記の項目に該当した回答が非常に多く、未だ中学校現場の教員の不安は解消されていない現状が明らかとなつた。

実践ダンス種目（中学校第3学年）
実践ダンス種目（中学校第2学年）
実践ダンス種目（中学校第3学年）

授業で採択されているダンス種目については、いずれの学年においても、「現代的なリズムのダンス」が最も多く、続いて「創作ダンス」「フォークダンス」の順となった。自由記述においては、ダンスの種類により指導課題が異なることが示唆され、特に「創作ダンス」の内容や、「現代的なリズムのダンス」の技能・内容について多くの課題が挙げられていた。

ダンス授業のクラス編成
活用している資料（複数回答）

ダンス授業のクラス編成は、男女共習での実施が60%が留まり、未だ男女共習授業に対して抵抗がある教員が存在する可能性が示唆された。また、視聴覚教材を活用して授業している教員が多く、自由記述においても動画教材についての要望が多数見られた。しかししながら、「振付動画」を希望する教員も多く、視聴覚教材の活用頻度が高いことと何らかの関連性がある可能性が考えられた。

創作ダンスで指導した内容
現代的なリズムのダンスで指導した内容

「創作ダンス」は、「即興的に表現する」の実施率が低く、学年を問わず、「創作ダンス」の指導における重要課題であることが示唆された。「現代的なリズムのダンス」についても、「振付のあるダンスを踊る」活動が多く実施され、「リズムに乗り自由に踊る」は最も少ない結果となった。教員側のダンス授業に係る先入観を取り払い、学習指導要領の内容に即した指導方法や教材を教員に提供する必要性が示唆された。

<本事業の成果> 全国の中学校でのダンス授業の実態について、アンケート調査から把握することができた。ダンス授業の実施に際し、未だ現職教員の不安が大きいこと、また、「創作ダンス」や「現代的なリズムのダンス」の指導における課題が多かったこと、指導内容に偏りがあることなどが示唆された。教員側のダンス授業に係る先入観を取り払い、学習指導要領の内容に即した指導方法や教材を用いて、実践的なダンス授業を実現するためのアドバイスを行った。また、各学年別に実践的なダンス授業の実例を示すことは、ダンス授業のイメージが掴みやすく、その指導法や教材をベースとして、それぞれの授業に応じた実践的なダンス授業を実現するためのアドバイスを行った。

<方法②>
ダンスの技能の要素をまとめた教材及び学習指導要領に基づいた単元計画例を作成し、具体的な指導に関する動画素材と共にホームページ上で公開した。
それらの教材や指導法等を基に、教員対象の研修会や各中学校で実際にダンス授業を行い、成果と課題を検証した。

<結果②>

中学校第1学年及び第2学年、中学校第3学年別の「技能評価観点構造図」

平成29年告示の学習指導要領解説の例に対応させた。中学校段階での技能評価観点構造図を作成する必要があると考へた。ワーキンググループや有識者会議のメンバーを中心に議論を重ね、中学校第1学年及び第2学年、中学校第3学年別の「技能評価観点構造図」を完成させた。

中学校第1学年及び第2学年開発単元構造図と、動画素材サンプル（抜粋）

中学校第1学年及び第2学年開発単元構造図と、動画素材サンプル（抜粋）

中学校における実践

研修後のアンケートの結果、「技能評価観点構造図」については、全教員が、「知識」（わかる）と「技能」（できる）を贅ぐ。ダンスの指導や評価をする上で役立ちそうだと回答し、一定の評価を得られたと考えられた。ホームページの動画教材の提供についても好評であり、実践的なダンス授業を実現するためのアドバイスを行った。その後、作成了した単元計画とともに、それぞれの時間に実施する具体的な指導方法や教材を検討した。

教員対象ダンス研修会における実践

エクセル、
ワード、
PPT で A4

タイトルを
お願いします

作成資料、指導案等
の提供も可能です